

令和4年度

授業改善プラン

大田区立矢口東小学校

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

大田区立矢口東小学校

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 小学校学習指導要領
- 小学校設置基準
- 東京都教育目標
- 大田区教育目標 等

大田区立矢口東小学校教育目標

人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、意欲を持って主体的、創造的に取り組む児童の育成を目指し、次の目標の達成に努める。

○自ら学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子

- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される児童像

- 各教科の指導の重点
- 国語
言葉の学習を中心に言語感覚を養い、適切に表現する力と思考力を育てる。
 - 社会
社会事象に関心をもたせ、資料活用力を向上させ、知識理解の確実な定着を図る。
 - 算数
基礎的な計算能力を確実に身に付ける。
習熟度別少人数学習を通して数学的な見方・考え方を育てる。
 - 理科
科学的な見方や考え方を養うために予想や仮説を立て学習する。
 - 生活
身近な人々、社会、自然に関心を持ち、見たもの、気付いたものを絵や文章で表したり、言葉で伝えたりする。
 - 音楽
音楽に対する興味・関心を高め、音楽を愛好する心を育てる。
 - 図画工作
個性を生かした創造的な造形活動ができる基礎力の育成を図る。
 - 家庭
生活を工夫しようとする実践的な態度の育成を図る。
 - 体育
様々な運動をバランスよく取り組み、健康の維持・増進を目指す。
 - 外国語
聞くこと、話すことの言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育む。

学校経営の基本方針

「信頼される学校」「地域とともに歩む学校」を目指すために、生き生きと学校生活を送り、地域や保護者との連携を深めるとともに、日々の教育活動を通して「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」「健康・体力の向上」に取り組むことで自立への基礎を養う。

外国語活動の重点

- ・コミュニケーション能力の伸長

本校における学力向上のための基本方針

- 少人数指導の工夫や補習教室を効果的に行うことにより、個に応じたきめ細かい指導を行う。
- タブレット端末で習用コンテンツ等を利用して、授業で活用するとともに、家庭学習にも使うことで、家庭と連携した学習習慣づくりをすすめる。
- 社会に求められる資質・能力の育成を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。
- 児童の実態に即した学習指導計画を立て、ねらいと評価を明確にした授業展開を図る。
- 授業観察時に授業を公開し、指導法の工夫・改善に努め、授業力の向上を図る。

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・自ら学習課題を見付け解決する態度
- ・探求型の学習活動の推進

矢口東小学校の学力の考え方

【知育】 学習規範や基礎的・基本的な知識・技能の定着により、きめ細やかな指導を行う。楽しく分かる授業の実践を進めながら『自ら学ぶ子』を育てる。

【徳育】 学級経営・専科経営・保健室経営の基本である子ども一人一人の理解に努める。また、学校の教育活動全体を通して、心の教育や人権教育の充実を図り、『心豊かな子』の育成をすすめる。

【体育】 健康安全指導や保健指導の徹底を図る。体力・健康意識の向上を地域、保護者と連携し広めていく。健康づくりや体力づくりを効果的に取り入れ、授業改善を図るとともに、『たくましい子』の育成に努める。

【体験的な活動】 地域の資源や人材を積極的に学習に活用し、ものづくり教育や体験学習を一層充実させ、児童が実際に見たり、触れたり、感じたりする機会を意図的に計画する。

道徳教育指導の重点

- ・基本的生活習慣
- ・豊かな心の育成
- ・生きる力の育成
- ・道徳的実践力の定着

特別活動の指導の重点

- ・代表委員会、委員会活動の充実
- ・教科・領域等の関連
- ・児童による学校行事の企画立案
- ・異年齢集団での交流

生活指導の重点

- ・「矢東小のやくそく」の徹底
- ・全教職員の児童理解 共通実践の徹底
- ・避難訓練、防犯訓練等の実施

キャリア教育の推進

奉仕活動の推進、様々な職業の方を招いての授業の実施などを通して、自己有用感や勤労意欲の伸長を図る。

矢口東小学校の授業改善に向けた視点

個に応じた指導体制	学習習慣の確立	基礎・基本の確実な定着	授業の質の向上	授業時数の確保	評価活動の工夫
○複数指導体制の整備 ○算数科での全学年習熟度別少人数指導 ○専科教員による指導	○矢東学習スタンダードと「家庭学習のすすめ」の徹底 ○早寝・早起き・朝ごはん月間と子どもの心サポート月間の取り組み	○東京ベーシックドリルとステップ学習による繰り返し学習と反復練習 ○補習教室（放課後10回 土曜6回） ○授業補助 108時間 ○学習カウンセリング実施	○外部人材の活用による問題解決学習と体験的な学習の充実 ○授業観察時に授業を公開し、教員相互が指導法の工夫・改善に努める。	○振替を設けない土曜授業の実施（年9回）	○授業改善推進プランの検証 ○全児童、全家庭を対象とした評価の実施と活用

【令和4年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

国語科における令和3年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・国語に対する関心が高まるように、学習方法や掲示物などの工夫をしてきた。その結果、物語や詩・俳句に関心をもつ児童は増えてきた。しかし、「主体的に取り組む態度」のポイントは学年により違いが出てきている。発達段階に合わせて、主体的に取り組めるような指導の工夫が必要である。
- ・文章の内容や要点に注意しながら、自分の考えを明確にして読むことを指導した結果、文学的な文章だけでなく、説明的な文章の内容も少しずつ読み取れるようになってきているので、さらに確かな力を付けさせていきたい。
- ・叙述に気を付けながら読む練習を重ねることで、物語や説明文の内容を読み取る力が身に付いてきている。一方で、段落構成を考え、自分の考えを明確にして文章を「書く」ことについては、今後も指導を重ねていくことが大切である。

国語科における観点別の分析

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果の分析	・4年生と6年生は目標値を上回ったが、5年生は目標値を下回った。言語の特徴や使い方に関わる力を付けることが課題である。 <u>漢字や言葉の習得率を高め、語句と語句の関係、話や文章の構成を意識させ、作文等で使わせていく。</u>	・6年生と4年生は目標値を上回ったが、5年生は目標値を下回った。文章を書いて表す力を付けることが今後の課題である。段落構成を考えたり、自分の意見とその理由を区別したりしながら日常的に書く活動を取り入れていく。	・4年生は目標値を上回ったが、5年生と6年生は下回った。自らの理解の状況を振り返ることができるよう、発問の工夫をする。また、自らの考えを記述し、話し合う学習活動の場を設け、児童の主体性を高めることにつなげていく。

授業改善のポイント

- 1 国語に対して主体的に取り組もうとする意欲を高め、言葉に対する感覚や語彙を豊かにしていく。
→日常的に様々な言語活動を取り上げ、言葉に親しむ機会を増やす。
- 2 相手や目的、意図に応じて、文章構成を考えたり、表現を工夫したりしながら書く力を付けさせる。
→文章全体の構成を考えたり、メモや付箋を用いて自分の意見を明確にしたりして文章を書く。
- 3 文章の内容や要旨を捉え、自分の考えを明確にしながらか読む力を付けさせる。
→文章の構成や要点に注意しながら読み、文章を読んで考えたことを伝え合う。

授業改善策

- 1 国語に対して主体的に取り組もうとする意欲を高め、児童同士が学び合いながら言葉に対する感覚や語彙を豊かにするために
全学年：現在行っている矢東タイムの読書時間を今後も継続し、日常的に本に親しませていく。
低・中：話型などを用いて意見の伝え方を身に付けさせ、慣れさせていく。苦手な児童も自信をもって話し合いに参加することができるようにさせる。徐々に、「伝える」から「伝え合う」、そして「話し合う」につなげていく。また、図書時間を活用する。本の読み聞かせ等の時間を確保し、読書の楽しさが味わえるようにする。関心をもった言葉の意味や使い方を、国語辞典や漢字辞典で調べさせる。
高：グループやペアでの話し合い活動やメモの活用、話し合い方の視点等、学習の進め方を工夫することにより、児童が自分の考えを明確に伝えるよう表現を工夫し、意欲的に学習に参加できるようにしていく。
- 2 相手や目的、意図に応じて、文章構成を考えたり表現の工夫をしたりしながら書く力を高めるために
全学年：「書くて楽しいね」を用いて、文章構成の力を付けていく。また、振り返りや短作文、観察記録、語句調べなどを通して、日常的に書く活動を取り入れていく。
低：行事や生活科とも関連させ、自分の思いを伝える楽しさを感じさせながら取り組ませる。経験したことや想像したことの順序を整理させ、「はじめ・なか・おわり」の構成を考えて書く。
中：自分の考えやその理由・根拠を明確にして書かせる。理由の場合は「なぜかというところからです。」「その理由は～です。」等、表現の仕方を指導する。
高：国語に限らず、様々な場面で書いて表現する活動を取り入れる。また、段落構成を考えながら書くことにも慣れさせる。学んだ効果的な表現方法を作文の中で進んで使わせていく。
- 3 文章の内容や要旨を捉え、自分の考えを明確にしながらか読む力をつけさせるために
低：物語だけでなく、説明的な文章の本も楽しんで読もうとする態度を育てる。書かれている事柄の順序や場面の様子に気を付けながら読ませる。
中：いろいろな種類の本に関心をもたせる。段落相互の関係を考えたり、内容の中心を捉えたりしながら読ませ、自分の考えや感想などをまとめて児童同士で交流させる。
高：目的に応じて、本を選んで読ませる。文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実・感想・意見を区別したりして読み、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

社会科における令和3年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・知識・技能において4年生は目標値を上回っていることから、一定の成果が出ているが、5・6年生に関しては、目標値を下回っている。定期的に学習内容を振り返る機会を設定したり、子どもたちが自分なりに学習内容をまとめたりする活動の確保が大切である。
- ・思考・判断・表現において4年生の結果に成果が見られた。昨年度同様、どの学年も資料の読み取り方に課題がある。資料を読み取る際に、問いに対する具体的な読み取り方を技術として身に付けることができていないことが課題である。
- ・主体的に学習に取り組む態度において、5・6年生は目標値を下回っている。教科書内容で学んだことと実生活や社会科見学での学びを結びつけていくことが課題である。4年生は目標値を上回り、成果が出ている。

社会科における調査結果の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果分析	<p>・4年生は目標値を上回り、5・6年生は下回った。特に6年生では「日本の国土と人々の暮らし」についての項目が、昨年より大幅に正答率が下がっていた。国土とその特徴についての理解を深める教材を活用する必要がある。</p>	<p>・4年生は目標値を上回り、5・6年生は目標値を下回った。昨年同様どの学年も資料を読み取り答える課題がある。資料の読み取り方や前年度の振り返りをするなどして、資料の読み取りを技術的に底上げすると取り組みが必要である。</p>	<p>・4年生は目標値を上回り、5・6年生は目標値を下回った。授業の中で、児童の興味を引き立たせる問いづくりや体験的な学習を授業の中で取り入れていくことで、主体的に学んだことを生かしたり興味の幅を広げて学習したりする態度を身に付けさせていくことが課題である。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1 分かったことや考えたことを短い文章や他の表現方法で、表す。

→社会的な思考・判断・表現する力を伸ばしたり、知識・技能を定着させたりするために、事実や意見を自分の言葉で表現させる時間を設定していく。また、タブレット端末で1枚のスライドにわかったことや考えたことをまとめるなどする。クラス全体で共有する時間も大切にして、友達の考えから学べるようにする。

2 資料を読み取る技能を定着させる。

→グラフなどの数値の変化や資料の読み取り方・活用の仕方について、他教科の学習内容と連携させて合科的な学習をすすめる。

3 社会に対する児童の興味・関心を高める。

→資料の提示の仕方を工夫したり、「問い」を工夫したりして児童が社会科の学習に興味をもてるようにする。ICTも活用しながら、自分から調べてみたいと思ったことを調べる時間を設ける。

社会科の授業改善策

1 社会的事象への主体的に学習に取り組む態度を高めるために

→児童が自然と疑問をもつような資料提示に工夫をいれるなど、児童が関心・意欲をもてるように工夫する。また、どの学年でもゲストティーチャーや外部の教育機関、企業の協力を得て、授業に多様な活動を取り入れる。

2 社会的な思考・判断・表現を高めるために

→〈中学年〉身近な地域の学習が中心となるため、実生活や見学に行ったことと学習したことを結び付けるような学習の計画を立てるようにする。

→〈高学年〉複数の資料から読み取ったことを「比べる」、「関連付ける」、「まとめる」という思考の流れを指導する。資料が示していることから思考する場面を設定していく。またICTを活用した学習として、タブレットでの調べ学習や教科書内容をスライドにまとめて児童同士で発表し合う形式をとるなどする。

3 知識・理解の技能を高めるために

→①八方位、都道府県、日本周辺国の名称と位置について、どの学年でも地球儀や地図を活用して知識の定着が図れるように、既習事項を振り返る時間を大切にする。

②習得させたい用語について復習する時間を取っていく。都道府県クイズや歴史かるたなどを活用したりして、児童が意欲的に学べる機会を増やしていく。

【令和4年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

算数科における令和3年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果 ・数と計算の問題解決の際に具体物、図、数、式、表、グラフなどを用いて表現し、立式させるなどを指導した結果、基礎的な内容の正答率が目標値を上回った。(4年生)
・データの活用領域を理解するために、ICT機器を活用しながらグラフの描き方を指導した結果、活用の領域の正答率が目標値を上回った。(5年生)

課題 ・問題文を読み取り、演算決定ができるように指導したり、立式の根拠を自分の言葉で説明できるようにさせたりする指導をしたりしてきたが、基礎、活用の両方の領域で正答率が目標値を下回った。(6年生)
・数と計算の単元などでテープ図や線分図を自分で描けるように指導してきたが、基礎的な内容の正答率が目標値を下回った。(5年生)

算数科における調査結果の分析

観点別結果の分析	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・第4学年は目標値を上回った。第5、6学年は目標値を下回った。 ・数直線上に示された分数を読み取ったり、折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取ったりする力が十分ではない。	・第4学年は目標値を上回った、第5学年はほぼ目標値だった。第6学年は目標値を下回った。 ・友達の考えを聞いたり、自分の考えを書いたり、話したりする活動を通して、思考を深めたり、表現する力を付ける必要がある。	・第4、5学年は目標値を上回った。第6学年は目標値を下回った。 ・自分の解き方に固執せず、友達の考えから学んで、より良い方法を取り入れ、問題解決する力が十分ではない。

授業改善のポイント

〈低学年〉
・児童の定着度に合わせた計算問題を反復練習させる。
・問題文を読み取れるように場面のイメージ化を図る。

〈中学年〉
・数直線を使って立式を考える習慣を身に付けさせる。

〈高学年〉
・演算決定する際に図、式、絵などの手だてを講じながら考えさせる。
・問題文のキーワードや単位に印を付け、問われていることを正しく読み取らせる。

算数科の授業改善策

知識・技能を高めるために
・基本的な計算を反復練習させながら学習をすすめていく。
・図形の領域では、円や三角形等の作図を繰り返し練習するなど、図形の構成要素をつかむ活動を通して性質の理解を深められるようにする。
・データの活用では、身の回りにある様々な円グラフや帯グラフ(社会科や理科の教科書も活用)を比較し、その特徴や使い方に気付くことができるようにする。

思考・判断・表現を高めるために
・ブロックなどの具体物を用いて、考える時間を十分にとることでその仕組みを理解させ、表現できるようにさせる。
・数と計算では、立式の際に絵や図を用いて、立式の根拠を説明させるようにする。
・図形の学習では、図形の性質について理解を深めるため、作図をするだけでなく、紙を折ったり、切ったりすることで図形を作るなどの活動を増やしていく。

主体的に学習に取り組む態度を高めるために
・数と計算について、他教科や生活の中で生かせる場面をさがし、適宜応用させていく。
・自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする活動を通して、思考を深めたり、表現力を向上させたりする。
・日常生活に関連付けた課題を提示したり、既習事項を意識させ、活用できるように掲示したりして、見通しをもたせるようにする。

理科における令和3年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・教科合計得点において、全学年目標値を下回った結果となった。自然事象に親しむ素地を作ることを大切にしつつ、問題解決学習の流れを繰り返し行ったり、導入で問題意識や興味・関心を高める工夫を行ったりするなど、授業改善を徹底していく必要がある。
- ・日々の生活の中で、教員自身がゆとりをもって自然事象に親しみ、理科（科学）に対する理解を深めていく必要がある。

理科における調査結果の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別 結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年目標値を下回った。観察や実験を通して得られた内容を、実感の伴う確かな知識・技能として定着することが求められる。日々の授業の中で、一人一実験（一人一教具）を基本とし、個人での実験器具の正しい操作等、体験を伴った指導を徹底していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4学年は目標値を上回った。第5、6学年は下回った。観察や実験の結果を共有する際にイメージ図を活用したり、実証性、客観性、再現性を確認したりするなど、科学的なアプローチの有効性を意識させ、児童の思考力・判断力・表現力を継続して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4学年は目標値を上回った。第5・6学年は下回った。児童の興味・関心を引き出す授業の流れや導入の方法をさらに工夫していく。観察や実験を十分にを行い、実生活との結び付きを意識させるなどして、より主体的に学習に取り組むことができるよう指導していく。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1 自然事象への関心・意欲を高める

→導入や授業の流れ、場づくりを工夫する。実際の生活や各教科等と、理科で学習した内容が結び付けられるようにする。

2 科学的な思考力・表現力を高める

→実験や観察は、予想やめあてをもって行うようにする。その様子や結果から分かったことから何が言えるか、文章やイメージ図に表したり、発表したりすることで、互いの考えを共有できるようにする。

3 観察・実験の技能の向上

→一人一実験（一人一教具）を基本とする。実際に実験したり観察したりする活動時間を十分に確保する。

4 知識・理解の定着

→実感を伴った理解ができるよう学習状況を丁寧に見取り、学び残しやつまずきに適切な指導を行う。

理科の授業改善策

1 自然事象への関心・意欲を高めるために

→子どもたちにとって、身近な事柄を教材の中に取り入れたり、自然への意図的な働きかけができる環境づくりを取り入れたりする。また、問題解決学習の流れを大切にしている。

2 科学的な思考力・表現力を高めるために

→実験結果から考察する過程に重点を置き、「結果から考えると、～ということがいえる」「AとBの結果を比べると、～ということがいえる」など、事実（実験結果やデータ）を基に考えたり、推論したり、考察したことを分かりやすく表現したりする力を養う。

3 観察・実験の技術の向上を達成するために

→一人一実験（一人一教具）を基本とする。実験が行いやすいよう、理科室及び理科準備室の整備を行う。また、解決したい問題について必要な器具や実験方法を考える時間を十分に確保して、児童が自分で実験計画を立てられるようにしていく。

4 知識・理解の定着を図るために

→自然の事物・現象の性質や規則性についての知識がしっかりと定着するように、ノートやワークシート、タブレット端末を適切に活用していく。書き方やまとめ方を指導して、学習したことが単元終了時に確認できるようにする。

【令和4年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

生活科における令和3年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果

- ・コロナ渦ではあったが感染症防止対策をとりながらも、相手意識をもって行動することのよさに気付き、それを日常の学校生活の中に役立てることができるように創意・工夫できた。
- ・体験や活動を通して自分なりの気付きをすることはできていた。感染症対策を講じながら表現の場を設定したり、他教科とも連携させたりして、思考と表現の一体化を目指しながら指導を行った。
- ・スタートカリキュラムに沿って、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていくことが課題として取り組んだ

課題

- ・令和2年度からの新型コロナウイルス感染症防止対策により、グループ活動や地域に出での活動、身近な人々と交流する学習がほとんど行えない状況であった。
- ・体験や活動を通して自分なりの気付きをすることはできているが、感染症防止対策の観点から表現の場が限定的になってしまった。
- ・スタートカリキュラムに沿って取り組んだが、学校生活になかなか慣れない様子の児童が見られた。児童の実態を分析しながら、引き続き取り組んでいる。

生活科における観点別の分析

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ渦において、校外の人とのかかわりには制限があるが、身近な人々の思いや願いを想像し、自分にできることを考えることができている。 ・諸活動を通して、学校の自然や人とのかかわり、その場所の良いところに気付くことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して考えたことや感じたことを観察カードにまとめたり、タブレットを活用して表現したりすることができた。 ・活動や体験について考える際、活動そのものを楽しんでいる様子は見られるが、それを表現する方法が十分に備わっているとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の成長のような自然現に関心を持ち、意欲と愛着をもって活動しようとしている。 ・相手に喜んでもらえるような計画を立てたり、友達と一緒に楽しめる遊びを考えたりしようとしている。

授業改善のポイント

- 1 具体的な活動や体験を通して身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもたせる。
→地域の人々と交流する活動や地域に出かける活動を二年間にわたり継続的に取り入れる。ただし、感染症予防の観点から、他者とかわる活動は実施するかどうかや、体調管理などに十分配慮する。人と触れ合うことや地域社会のよさ、自然の不思議さや面白さなどを実感できるような体験的活動を取り入れ、日常的に人や社会、自然に目を向けられるようにする。
- 2 表現活動を充実させ、その言語化を図る。
→活動や体験をその場限りで終わらせるのではなく、小学校低学年の発達特性を踏まえ、様々な表現方法を十分に活用した指導・支援を行う。さらにそれを適切な言語表現につなげるために、他教科と連携した指導を充実させる。またタブレットを活用した表現方法を取り入れる。
- 3 スタートカリキュラムに沿った小学校生活への適応を図る
→スタートカリキュラムを策定し、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていく。担任以外の人材も活用し、学校全体で取り組んでいく。

授業改善策

- 知識・技能
身近な環境に主体的にかかわる中で、生活に必要な習慣や技能を身に付けようとする態度につなげる。
- 思考・判断・表現
・活動前後の話し合い活動を十分にさせることにより、体験活動と表現活動の一体化を図る。
・人と交流する機会を設け、相手に応じた活動や表現を工夫させる。
・タブレットを活用した表現方法を取り入れる。
- 主体的に取り組む態度
・カード等の表現、発表、話し合いの中からよい気付きを価値付け、各自の学びをたしかなものにすることにより、次の活動に生かして取り組もうとする態度につなげる。
- 学校生活への適応を計画的に図るために
・スタートカリキュラムに沿って、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていく。

音楽科における令和3年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・実態に応じた基礎基本の系統的な指導により、表現することへの自信が付いてきている。グループ活動や学年合奏などを効果的に取り入れていく。
- ・表現と鑑賞の授業を関連付けることにより、音楽を形作っている要素や仕組みを理解して、表現に生かせるようになってきている。
- ・歌うこと、演奏することを好む児童が多い。発達段階に応じて響きのある声でハーモニーをつくったり、パートを増やして合奏したりできるようにしていく。

音楽科における観点別の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を大切に鍵盤ハーモニカやリコーダーの練習に、熱心に取り組む児童が多い。 ・音楽を形づくっている要素やしくみを知って、曲を理解しようとする児童が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素やしくみを根拠にして表現を工夫しようとする児童が増えてきている。 友達の意見を聴いて考えを広げたり深めたりできるように心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽の学習に、意欲的に取り組む。 ・歌唱は元気に楽しく歌うが、発表の場面でやや消極的になる。 ・楽曲のよさや面白さを感じ取って聴いている。 ・友だちと協力し合ってすすんで音楽づくりをする。

授業改善のポイント

- 1 児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。**
→児童の実態に応じてねらいを明確にして、確実に習得できるようにしていく。
- 2 音楽表現を工夫することや音楽を味わって聴くことができるようにする。**
→曲の特徴に気付いたり、ふさわしい音楽表現を試したりしながら、思いや意図をもつ。
音楽を味わって聴けるようにする。
- 3 主体的・創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することができるようにする。**
→自ら音楽にかかわっていくことができるようにする。

音楽科の授業改善策

- 1 児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。**
低 曲想と音楽の構造などのかかわりに気付き、楽しく表現できるように技能を身に付けるようにする。
姿勢、鑑賞時のマナー、鍵盤ハーモニカの取り扱いを身に付けて、大切にすることを育む。
中 曲想と音楽の構造などのかかわりに気付き、表したい音楽表現ができるように技能を身に付けるようにする。
姿勢、鑑賞時のマナー、リコーダーなどの楽器の取り扱いを身に付けて、大切にすることを育む。
高 曲想と音楽の構造などのかかわりを理解して、表したい音楽表現ができるように技能を身に付ける。
姿勢、鑑賞時のマナー、リコーダーなどの楽器の取り扱いを身に付けて、大切にすることを育む。
- 2 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。**
低 表現したり聴いたりすることに、思いをもって楽しめるようにする。
中 音楽表現を考えて思いや意図をもち、曲や演奏の良さを見出しながら聴くことができるようにする。
友達とのかかわりがもてるような活動を工夫する。
高 音楽表現を考えて思いや意図をもち、曲や演奏の良さを見出しながら聴くことができるようにする。
友達とのかかわりがもてるような活動や全員で作りに上げていくような活動を工夫する。
- 3 主体的・創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することができるようにする。**
低 個人の活動や友達との活動を通して、楽しく音楽にかかわっていくことができるようにする。
中 共動して、すすんで音楽にかかわっていくことができるようにする。
高 共動して、主体的に音楽にかかわっていくことができるようにする。

【令和4年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

図画工作科における令和3年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・発達段階や実態に応じた題材や指導内容を工夫したことで、子どもたちは意欲的に造形活動に取り組むことができた。
- ・自分の作品や友達の作品を鑑賞、制作後の作品の発表など授業の展開を工夫することで作品を楽しく見ることができた。
- ・材料、用具、作品などを丁寧に扱うことを継続的に指導し、互いの活動を尊重し安全に学習できる環境を保持できるようにする。

図画工作科における観点別の分析

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう人間性
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none">・様々な用具や工具、描画材等の使い方を工夫して、自分の思いにそって表現方法を考えている。・基礎的な用具の扱いや技法について、まだ習得が不十分な児童もいる。	<ul style="list-style-type: none">・自分らしく発想したり構想をたてたりして、主体的に表現しようとしている。・自分の思いや考えを表すことに苦手意識をもち、なかなか発想できない児童もいる。	<ul style="list-style-type: none">・材料や題材に対する興味関心を持ち、すすんで創造的な造形活動に取り組もうとしている。・作品や身のまわりのものに関心をもつことができている児童もいるが、全体に説明した内容の理解が難しい児童もいる。

授業改善のポイント

1 表現の意図に応じて、用具や材料を自分なりに工夫して使うことができるようにする。

→個別に製作を観てまわり、用具や材料の基本的な扱い方や技術的な支援をしていく。

2 想像力を働かせて構想をたてたり、自分らしく発想したりして、つくりだすことの楽しさを味わえるようにする。

→作品や活動のイメージや見通しをもちやすいように、試しやすく、やり直ししやすい題材や造形遊び、共同制作など児童の実態に合う題材を取り入れる。

3 身のまわりの材料に関心をもち、創造的な造形活動に対する意欲をもつことができるようにする。

→扱う材料の色や形・感触などのよさを知ったり、表現の可能性を感じたりすることができるよう題材や活動内容を工夫する。

図画工作科の授業改善策

○知識および技能

低：形や色などの造形的な視点に気付き、身近で扱いやすい材料や用具を用いて、表したいことに合わせて工夫して表す。

中：前学年までの材料や用具の経験を活かして、手や体全体を十分に働かせて、表したいことに合わせて工夫して表す。

高：前学年までの材料や用具などについて経験や技能を生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表現を工夫する。

○思考力・判断力・表現力

低：児童の実態に合わせながら、身近な材料や用具を生かせる題材を取り入れて、楽しく発想や構想できるようにする。

中：造形的なよさや面白さを、表したいことを考え、自分の見方・感じ方をもとに想像したり発想したりできるような題材に取り組む。

高：造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方を考え、自分の見方・感じ方をもとに想像したり発想したりできるような題材に取り組む。

○学びに向かう人間性

低：作り出す喜びを味わい、楽しく表現・鑑賞の活動に取り組もうとする。

中：作り出す喜びを味わい、すすんで表現・鑑賞の活動に取り組もうとする。

高：作り出す喜びを味わい、形や色などの造形的な特徴をもとに用具を活用して、主体的に表現・鑑賞の活動に取り組もうとする。

【令和4年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

家庭科における令和3年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・皆で課題に粘り強く取り組む姿勢が見られるようになった。難しい課題でも教え合いながら取り組むことができた。
- ・家族や家庭の生活、地域社会にも積極的に参加することが今後の課題である。
- ・感染症対策のため、調理実習がほとんどできなかったので、調理の基礎を学ぶ機会がなかった。環境に考慮した料理の仕方や片付け方などを積極的に学習していく必要がある。

家庭科における観点別分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果の分析	・基礎的な技能はほぼ身に付いていると考えられる。集中して取り組むこともできる。しかし、裁縫では技能取得までに時間を要する児童がいる。 ・衣食住や家族の生活、地域社会に関する基礎的なことについては大体の児童が理解している。しかし、家庭の状況によって差が生じている。	・自分の生活において、課題を見付けようとするができる。話の聞き方や理解力に課題があり、判断や表現に影響が出ている。 ・教えられたことに取り組むことができるが、自分で判断してそれを実践していくということに課題が見られる。	・大体の児童が家庭科の学習に意欲的に取り組んでいる。特に調理学習への関心が高い。 ・他者に判断をゆだねてしまう傾向があり、主体性に課題が見られる。

授業改善のポイント

- ・児童一人一人が学習に興味・関心をもち、自分で考えて行動できる力の向上を図る。
- ・自分の周りの環境や物を大切にしようとする態度を養う。
- ・学習したことを自分の生活の中でも生かしていける力を養う。
- ・学び合い、助け合いながら自分たちの力を高めていける環境を整える。

家庭科の授業改善策

○学習に興味・関心をもち、自分で考えて行動できる力の向上を図るために

- ・児童の興味・関心のもてる必要感や実用性の高い教材や題材を用意する。
- ・児童の実態に合った指導計画を立て、授業の振り返りを児童も指導者も定期的に行う。
- ・指導者も児童も個人を認め合い、分からない時に助け合える環境をつくっていく。
- ・全体指導だけでなく、児童一人一人と個別に対話し、個に合った指導を心がける。

○自分の周りの環境や物を大切にしようとする態度を養うために

- ・自分の周りの人(教職員、家庭、地域)へ「ありがとう」を伝えることの大切さを常時指導する。
- ・SDGsを通して物を大切に使う態度を育成する。
- ・数の確認や片付けなど物の管理を指導者も児童も徹底する。

体育科における令和3年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・体力調査の結果（令和3年度）では、全体的に全校区平均・東京都平均よりも低い傾向にある。50m走、20mシャトルラン、ソフトボール投げに課題のある学年が多かった。中休みや昼休みは、積極的に外遊びをして体を動かす児童が多い。しかし、学年によっても差があり、全体的な体力・運動能力の向上にはつながっていない。
- ・健康に関しては日頃からの指導により、知識を自分の生活と関連させて考える力は育ってきていて、手洗いうがい等を徹底して行うようになっている。

体育科における調査結果の分析

	運動領域	保健領域
低学年	上体起こし、立ち幅跳びは好記録。長座体前屈、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げに課題がある。	
中学年	長座体前屈、立ち幅とびは好記録。握力、反復横跳び、上体起こし、50m走、ソフトボール投げに課題がある。	生活・健康・体の発達についての理解、知識はあるので、実践できるように声をかけていく必要がある。
高学年	長座体前屈、20mシャトルランは好記録。反復横跳び、50m走、ソフトボール投げに課題がある。	心の健康・病気・けがの原因・生活習慣病についての知識は身に付いている。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1. 児童がすすんで運動に取り組むために、めあてを示す。
 - ・学習の最初にめあてを提示して、児童に見通しをもたせて取り組ませる。掲示物やワークシートも活用して、いつでも確認できるようにしたり、意欲や技能の高まりを実感できるようにしたりする。
 - ・場の設定を工夫し、児童が意欲的に取り組めるような環境作りを行う。めあての達成に迫るとともに、運動量が確保できるように、めあてに応じた活動の構成や時間配分も意識する。
2. 準備運動、予備運動の充実を図る。
 - ・準備運動の中に、体づくりの要素を取り入れたり、鬼遊びを取り入れたりして体力の向上を図れるようにする。
3. 個々の技能を高めるだけでなく、チームワークを大切にすることを育てる。
 - ・児童同士が励まし合い、教え合いながら運動に取り組めるようにグループ活動を取り入れる。
4. 健康・安全に関する知識を実生活に生かせるようにする。
 - ・早寝早起き朝ごはん週間を実施して、正しい生活習慣や運動習慣を身に付けさせる。
 - ・毎日の積み重ねで健康が維持できていることを実感できるように、視聴覚教材や掲示資料、ワークシートを授業に取り入れ、自己の行動や生活について振り返る機会をつくる。

体育科の授業改善策

- 低学年:** 体づくり運動や走の運動遊び・機械器具を使った運動遊びを充実させる。授業の最初に鬼遊びを取り入れる等、運動量を確保して、体力の向上を目指す。簡単なきまりのある活動を取り入れ、楽しみながら基本的な動きをしっかりと身に付けられるようにする。
- 中学年:** 友達と協力しながら運動に取り組むことで、特性に応じた技能を身に付けさせる。特に体づくり運動の充実を図ることで体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに基本的な動きができるようにする。また、体力向上を目指し、授業の最初に鬼遊び等のゲームを取り入れる。健康・安全に関しては、知識・理解を定着させ、実践していける力を養う。
- 高学年:** 友達と協力しながら運動に取り組むことで、特性に応じた技能を身に付ける。体幹を鍛えるために、特に体力を高める運動に重点を置き、計画的に指導する。また、活動を工夫して運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにグループ活動を充実させる。健康や安全については、知識・理解を定着させ、実践できるように、日常的な声かけを行い実生活と結び付けて考えさせる。

○いろいろな運動に意欲的に取り組むために

- ・視聴覚教材や提示資料を使うなど、授業を工夫する。また、ワークシートを活用し、学習の見通しをもたせるだけでなく、意欲を高められるようにする。
- ・休み時間を活用してできる取り組みを授業で行ったり、全校で運動に取り組んだりする。

○個々の技能を高め、チームワークを大切にすることを育てるために

- ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達同士で積極的にアドバイスし合ったり、励まし合ったりできるようにする。その際、タブレットを使って、友達の動きを撮りあったり、見合ったりして、互いにアドバイスしていく。

○健康への意欲を高める指導の充実を図るために

- ・早寝早起き朝ごはん月間を活用して、児童に規則正しい生活習慣が身に付くようにする。
- ・養護教諭や栄養士と連携し、衛生教育、食育の推進を図る。また、外部講師を活用し、保健指導や給食指導を継続的に行う。
- ・外部講師を活用し、心の発達や病気、がん教育、けがの予防、防止、薬物の危険性について意識の向上を図る。

【令和4年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

外国語科における令和3年度の授業改善推進プランの検証（今年度新規作成）

取り組みにおける成果と課題

- ・知識・技能において目標値を上回っているが、個々の定着に差が見られることから、単語の意味理解を丁寧に行ったり学習したことを振り返ったりする機会をもつようにすることが課題である。
- ・思考・判断・表現において6年生は目標値を下回る結果となった。学習において、アルファベットの書き方は高学年に限らず積み重ねているが、それを組み合わせて英作文をすることなどで力が発揮できていない状況が見られる。
- ・主体的に学習に取り組むことについて、どの学年においても、分かったことや自分ができるようになったことなどを学習の最後に振り返っている。さらなる意欲の高まりに繋げるために、次の時間の課題に対して意識をして取り組ませていくことが課題である。

外国語科における調査結果の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果分析	【第6学年学習効果測定より】 ・単語の意味理解、アルファベットの読み・書き、日常会話の理解について、全国平均を上回っているものの、昨年度よりも校内においては正答率が下がっている。	【第6学年学習効果測定より】 ・英作文など、思考して表現する分野においては全国平均を下回っている。また昨年度よりも校内においても、前年度と比較して正答率が下回っている。	・簡単な語句や基本的な表現を用いることに対して苦手意識をもっていることが、調査結果から読み取れる。興味・関心を高める授業の工夫が必要である。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 「聞くこと」に関する能力の向上
→身近な言葉で簡単な表現を理解できるように、音声を十分に聞かせる工夫を行い、定着を図る。
- 2 「話すこと」に関する能力の向上
→質問したり答えたりするだけでなく、やりとりが円滑に進むように、ALT と担任で手本を示してから活動に取り組みせるなどして、コミュニケーションスキルを向上させる。
- 3 外国語学習に対する興味関心の向上
→児童が聞いてみたい、話してみたいと思えるような必然性のある目的・場面を設定した授業展開にする。また、音声や視覚教材を有効活用する。

外国語科の授業改善策

- 1 外国語学習におけるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の向上のために
→全学年において、簡単な表現で友達と外国語での会話をする活動を設定する。また ALT と担任で連携し、授業の中で活動の手本を示して、児童にとって活動内容が明確になるようにする。
- 2 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむために
→高学年では、目的や場面に応じて語順を確認しながら書くことに親しませるとともに、繰り返し学習に取り組ませ、確実な定着を図る。また、プレゼンテーション活動の準備として、ノートに英単語でメモを作成させたり簡単な表現を作成させたりすることを通して、書くことへの理解にもつなげていく。
- 3 言語やその背景にある文化に対する理解を深めるために
→教材を扱う中で、気候の違いや民族衣装、衣服の違いなどから文化の違いを理解させていく。